



ウイルスとの共存 ～分散登校、そして学校再開へ～

校長 小林 理人

緊急事態宣言の解除を受け、待ちに待った学校再開の兆しが見えてきました。

先週の登校日には、新しい生活様式に戸惑いや緊張感も見られましたが、子供たちの笑顔と歓声が戻ってきました。登校の見守り等、ご協力いただいた保護者の皆様に感謝いたします。

昨年度から続いた臨時休業で、新学期の学習や行事等が全くできないまま、家庭学習中心の生活となり、保護者の皆様にはご負担とご迷惑をおかけしました。ご家庭の適切で行き届いた環境づくり、子供たちへの関わりにより、大きな病気や事故の報告もなく今日を迎えることができました。改めて感謝申し上げます。

特に、家庭学習の充実を目指した5月は、学習計画表やホームページを活用し、学校再開に向けて学校や担任と「はなれて、つながる」ことにチャレンジしました。保護者の皆様の温かい励ましやご助言により、教科書の内容を進めたり、学校や担任とのつながりを築いたりすることができました。この経験や成果を生かし、6月の学校生活をスタートさせます。

ウイルスとの共存をめざして「4つのない」を意識した生活

「私たちが一致団結して正しい行動を粘り強く続ければ、ウイルスの勢いが弱まり、共存が可能となります。」これはノーベル賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授のホームページにあった言葉です。ウイルスとの共存という言葉に目が留まりました。

山中教授の言葉にもあるように、これからの社会活動はウイルスとの「共存」が求められます。そして、学校教育も例外ではありません。大切な子供たちの命を守ることを最優先しながら、生活様式を見直し、ウイルスとの共存を実現する必要があります。

そこで、本校では、ウイルスとの共存を考えた学校生活のキーワードを「4つのない」としました。そして、そのことを意識した学習や生活の仕方を裏面にまとめました。

また、ご案内のように、子供たちの気持ちを考えながら、段階的に学校を再開するために、国や市の方針に基づき、以下のように行います。

ステップ①分散登校 小集団で、教科書を使った授業を毎日行う。

登下校も含め、学校生活での密集を避けるために2学年ずつの時差登校を行います。また、教室内で密集をつくらないように学級を2つの集団に分け、2時間程度の授業を行います。

分散登校では、学校生活のリズムをつかむことや、家庭学習との組み合わせで授業を進めることを考え、教科の学習を計画的に行います。

ステップ②学校再開 全校児童がそろって、新しい生活様式で学校生活を再開する。

6月15日(月)からは、学校再開を予定しています。地域の情勢を見極めながら、地区班別の登校を含め、新しい生活様式に基づく学校生活が始まります。分散登校で身に付けた新しい生活様式を継続し、その定着をめざしていきます。

分散登校期間中も、学校の授業と担任からの課題を中心とした家庭学習を組み合わせ学習を進めることになります。はなれてもつながることで築いた担任との絆や、再会を待ち望んだ友達への思いを大切に、6月の学校生活を子供たちと一緒に創っていきます。